

# パラ・パワー・ニュース

報告：特定非営利活動法人日本パラ・

パワーリフティング連盟、事務局

問合先 : ファックス 03-6229-5420

電話 : 03-6229-5423 吉田、久保

メール : [jppf.jimu@gmail.com](mailto:jppf.jimu@gmail.com)

ホームページ : <http://www.phouse.jp/>

## □ パラ・パワーリフティング

雑誌・新聞・紹介

(報告、吉田寿子)

過去、リハビリの延長としか見られなかった、障がい者のスポーツが、東京オリンピック、パラリンピックを契機に、「チャンピオンスポーツ」という見方が広がりつつある。企業も、障がい者雇用制度の法改正も、障がい者スポー

ー  
業にとっては、順風となり、様々なメディア、新聞に障がい者アスリートの現状とこれからの課題が浮き彫りにされ、リオパラリンピックや東京パラリンピックでは、ではどのような活躍が出来るのか、という、マスコミの取材攻勢が続いている。

左は、障がい者スポーツの雑誌「ノーリミット、限界はない」の表紙に抜擢された、パラ・パワーリフティング所属、西崎哲男選手。



### 未来へつなぐ パラリンピック

「見た！知りた！」  
「紹介」  
「紹介」

下肢障害者が車椅子で力をつけて、体育館の床の上を滑り、体の動きを維持する。この姿は驚きと感動を呼ぶ。この姿は驚きと感動を呼ぶ。この姿は驚きと感動を呼ぶ。

#### パワーリフティング

(競技の公式ロゴマーク)

ベンチプレス台にあおむけになり、持ち上げるバーベルの重量を競う。障害者のクラス分けはなく、資格所得、下肢切断、筋性まひ、下肢機能障害の選手が体重の区分けで競う。男子は49kg超〜107kg超級まで、女子は41kg超〜86kg超級までの各10級級ある。

**ヘルドの使用**  
体を安定させるため、ヘルドで足をベンチプレス台に固定することができる。

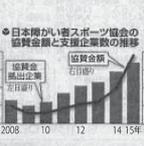
**ルール**  
1 脚をまっすぐ伸ばして足からヘルドを浮かせる  
2 バーベルを胸の上まで下ろす  
3 再び脚をまっすぐ伸ばしてヘルドを元の位置に戻す

#### 体重別「力」の勝負

足を置いて競技するのに対して、障害者はベンチの上で、バック全体から持ち上げる。この姿勢は、通常のベンチプレスとは異なる。この姿勢は、通常のベンチプレスとは異なる。この姿勢は、通常のベンチプレスとは異なる。

一回の試技は、バーベルをバック全体から持ち上げる。この姿勢は、通常のベンチプレスとは異なる。この姿勢は、通常のベンチプレスとは異なる。この姿勢は、通常のベンチプレスとは異なる。

## 障害者選手 雇用広がる



#### 協賛金拠出 目標上回る

日本障がい者スポーツ協会は、協賛金の拠出企業数を2011年以降は毎年増加させてきた。15年以降は、協賛金の拠出企業数は、目標を上回った。15年以降は、協賛金の拠出企業数は、目標を上回った。15年以降は、協賛金の拠出企業数は、目標を上回った。

## 東京パラリンピック 企業が関心

東京パラリンピックの開催が近づくと、企業からの関心が高まっている。企業からの関心が高まっている。企業からの関心が高まっている。企業からの関心が高まっている。企業からの関心が高まっている。

#### 障害者スポーツ支援の流れ

日本障がい者スポーツ協会の活動の流れを示す図表。

障害者スポーツの普及と支援の重要性が認識され、企業からの関心が高まっている。企業からの関心が高まっている。企業からの関心が高まっている。企業からの関心が高まっている。企業からの関心が高まっている。

# 進化続ける 障害者アスリート

障害者アスリートの高い競技力が注目されている。パワーリフティングのベンチプレス種目は障害者の記録が健常者を上回り、卓球や水泳などでは障害者が五輪に出場している。五輪の優勝記録をしのぐ陸上走り幅跳びの義足ジャンパーも現れた。障害者の運動能力は健常者より低いとされる「常識」を覆す、障害者アスリートの実力が迫った。(北海道編集委員 茂田健也 取材)

障害者アスリートの競技レベル例	世界記録	日本記録	障害者の世界記録	障害者例
男子59kg級	170cm	167.5cm	210cm (107kg超級)	下肢障害 (切断、まひなど)
男子数重級	270.5cm (120kg超級)	220cm (120kg超級)	295cm (107kg超級)	弱視、視野きょうさく、両下腿切断(義足)など
男子100%	9秒58	10秒00	10秒46	弱視、視野きょうさくなど
女子100%	10秒49	11秒21	11秒48	弱視、視野きょうさく、片前腕切断など
男子走り幅跳び	8m95	8m25	8m40	片下腿切断(義足)など
男子100%自由泳	46秒91	48秒41	50秒85	弱視、視野きょうさくなど
女子100%自由泳	52秒07	54秒00	50秒87	手前腕切断、両足趾切断など
女子800%自由泳	8分7秒39	8分23秒68	8分59秒09	弱視、視野きょうさくなど

## 走り幅跳び 右脚膝下義足の独・レーム リオで健常者超えも

一人の義足ジャンパーが陸上界を揺るがしている。右膝下を失ったドイツのマクス・レーム(27)。昨年10月、障害者の世界選手権男子走り幅跳びで、自身が持つ障害者の世界記録を11度更新する8m40を跳んだ。これは2008年北京の8m34、12年ロンドンの8m31という最長の五輪の優勝記録を上回る。

レームが健常者の世界記録8m95を塗り替える日は近い。そう予測するのは、義足アスリート研究で世界をリードする産業技術総合研究所(産総研)の研究員保原浩明だ。五輪とパラリンピック、世界選手権の優勝記録の推移を分析すると、それはリオデジャネイロ(ブラジル)で五輪が終わる、パラリンピックが始まる今年8月下旬という。昨年秋の世界選手権でレームは、踏み切り線をわずかに越えて無効になった試技で8m70近く跳んでいてもいい。

五輪パラリンピックが、保障がそう言うのには理由がある。レームは五輪出場を望むものの、国際陸上競技連盟は、選手自身に義足が有利に働いていないことを証明するよう求める。立証にはカネと時間が掛かり、研究レベルでの結論も出ていない。事実上の門前払いといえる。

レームは、100年の記録が同じ種目で健常者のトップ選手に比べると際立って遅い。助走速度も同様ではないかとの指摘もあり、義足効果も取り沙汰されている。



保原浩明

「義足アスリートは、足回りにつながる股関節の筋肉が強いといわれる。義足に適合しようとする、義足ではない足の股関節もバランスを保とうとして鍛えられる」と指摘もある。

保原の予測では、男子100%で義足ランナーが健常者のトップ選手を追い越すのは2068年前後で9秒10あたりとみる。義足では地面を蹴る力が弱く歩幅を稼げないが、軽量のため脚の回転は健常者を上回る傾向にある。回転をさらに上げ、同時に歩幅も伸ばせば、その日は訪れる。

## 補装具は有利？ 議論求める声

マルクス・レームのように補装具と呼ばれる義足を身に付け、五輪を目指す障害者アスリートには「テクニカル(技術的)・ドレーピング」の問題が降りかかる。補装具によって実力以上の成績を挙げている、という「疑い」だ。

両脚義足の短距離ランナー、オスカー・ピストリウス(南アフリカ)が有名だ。北京五輪で国際陸連にいったんは出場を拒まれ、スポーツ仲裁裁判所(CAS)

への提訴を経て認められた。「義足は有利」と言い切れる根拠がないことに加え、ピストリウスは義足の有利性を否定する証拠を求められなかった。北京では参加標準記録に届かず出場を逃したが、ロンドン五輪で念願はかない、男子400mで準決勝に進出。1600m男子決勝のアンカーを務め、8位だった。

北京五輪では左膝下切断の女性が、自然の中で長距離を泳ぐ水泳のオープンウォーターで16位に入ったり、卓球では右肘から先がない女性が北京、ロンドンの両五輪に連続出場するなど障害者の実力は高まっており、レームやピストリウスのような問題は陸上以外でも起こりえる。障害者スポーツ研究の第一人者で同志社大教授の藤田紀昭は「スポーツだけではなく、哲学や福祉など幅広い分野を交えた議論が必要」と説く。

一方、障害者と健常者を隔てる垣根が低くなれば、アイマスクをしたり、重い背に載って、パラリンピック出場を望む健常者が現れるかもしれない。障害者スポーツのエリート化が進めば、重度障害者が置き去りになる懸念もある。

# □ドバイワールドカップ

報告、吉田寿子



馬島選手が長野新聞で大きく報道されました。記事は、パワーハウス長野の宮本昌彦さんにお送りいただきました。

小林浩美選手が読売新聞に大きく報道されました。